

史料紹介

福田別所砂留について

田口 由実

「福田の史跡探訪の会」が整備を始め、現在は別所町内会の有志が中心となって整備を進めておられる芦田町福田の「別所砂留」。篠原副会長の伝手を頼り、整備中の砂留を昨年の暮に関係者の方に案内して頂いた。一番から十三番の砂留のすばらしさについてご紹介できないのは残念であるが、ぜひ現地を訪れてその目でご覧いただけたらと思う。

さて、現地の看板には「一八五六年（安政三年）福山藩普請」と書かれている。

これは、福山城博物館所蔵の三谷家文書（沼隈郡山手村庄屋）の安政三年（一八五六）『御用状願書帳』にある「福田村別所砂留普請に三月四日、山手村石築の綱五郎が派遣された」という記録に因るものだ。

よほどの大事業であつたらう砂留築造が一日二日のできるものと思えず、築造年を知る手がかりは何か他にないものかと考えた。

山手村の庄屋の文書にあるなら、他の文書にも何か手がかりはないもの

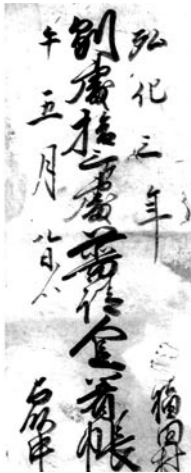
のか。

というわけで、国頭文書（福田村の庄屋小野新四郎の文書）を解説されたことがあり、我が古文書勉強会の師でもある山名洋通氏に調査をお願いしたところ快く引き受けてくださり、左記に紹介する弘化三年（一八四六）の史料と解説文をご紹介いただいた。（国頭文書199・10・8）

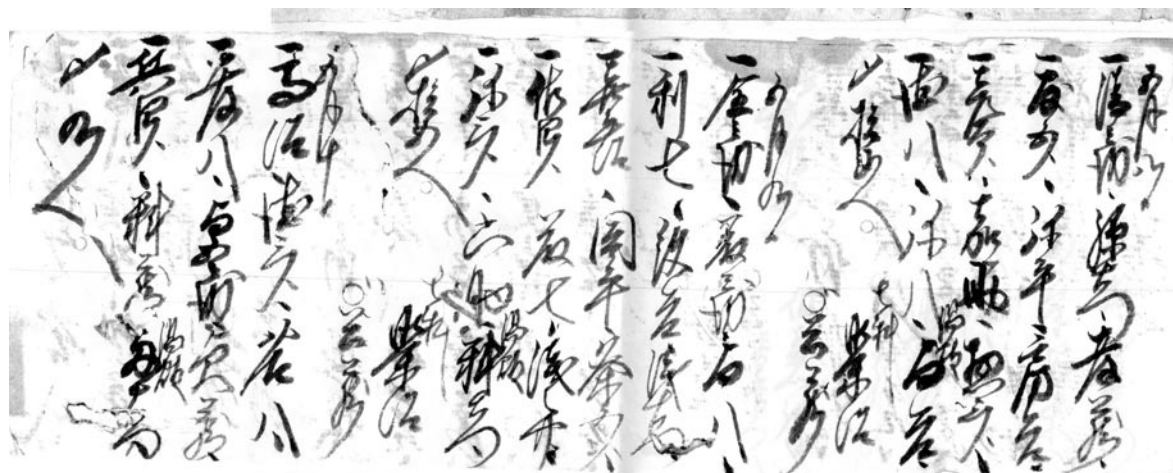
砂留ということばはないが「別所」「十三カ所」「石築」という単語は、別所の砂留一番十三番を如実に表わしているものと思われる。普請人数は五十名延八十五人。石築七名。合計五十七名である。（同文書五月八日から五月十二日までの期間で）

最後になりましたが、山名洋通氏に、改めて深く感謝申し上げます。

※国頭氏のご協力で、あらたに天保十一年（一八四〇）の文書も見つかりました。洪水の破損箇所の修復工事の申請の下書き（？）です。各砂留の切口長が記された興味深いものです。次号掲載予定です。



弘化三年 福田村
別所拾三ヶ処普請人足着帳
午五月八日より 与頭中



五月八日
一 清兵衛 孫右衛門 孝蔵
一 友五郎 弥平 房吉
一 彦太郎 嘉助 惣三郎
一 徳八 弥八 湯賄 与吉
才料
兵蔵

五月九日
一 金兵衛 藤兵衛 与八
一 利七 紋吉 残右衛門
一 嘉兵衛 周兵 糸五郎
一 佐四郎 藤七 浅之介
一 弥三郎 六助 湯賄 料右衛門
才料
兵蔵

五月十日
一 馬治 徳三郎 谷八
一 孝八 与五兵衛 貞蔵
一 兵四郎 料蔵 湯賄 多右衛門
才料
兵蔵

一 孫十 残吉
才料
兵蔵

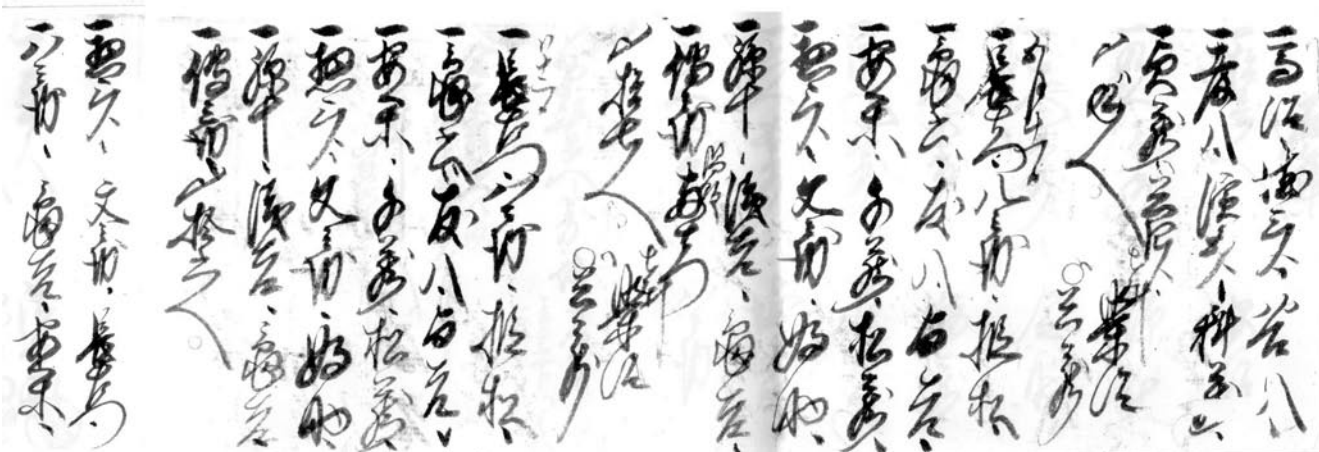
合
八拾五人 但壺人二付
壺匁六分八厘

石築

一 拾壺人 安治
一 九人壺歩 源七
一 七人六歩 令助
一 六人五歩 梅蔵
一 四人六歩 丈吉
一 六人五歩 徳治郎
一 六人五歩 八兵衛
一 五拾壺人八歩 但壺人二付
壺匁六分八厘

合 百三拾六人八歩
此賃銀 貳百拾八匁八分八厘
才料 拾人
此扶持方 壺斗

（以下略）
以下は、五十名の普請人の名前と押印、石築七名の名前と押印が続く。

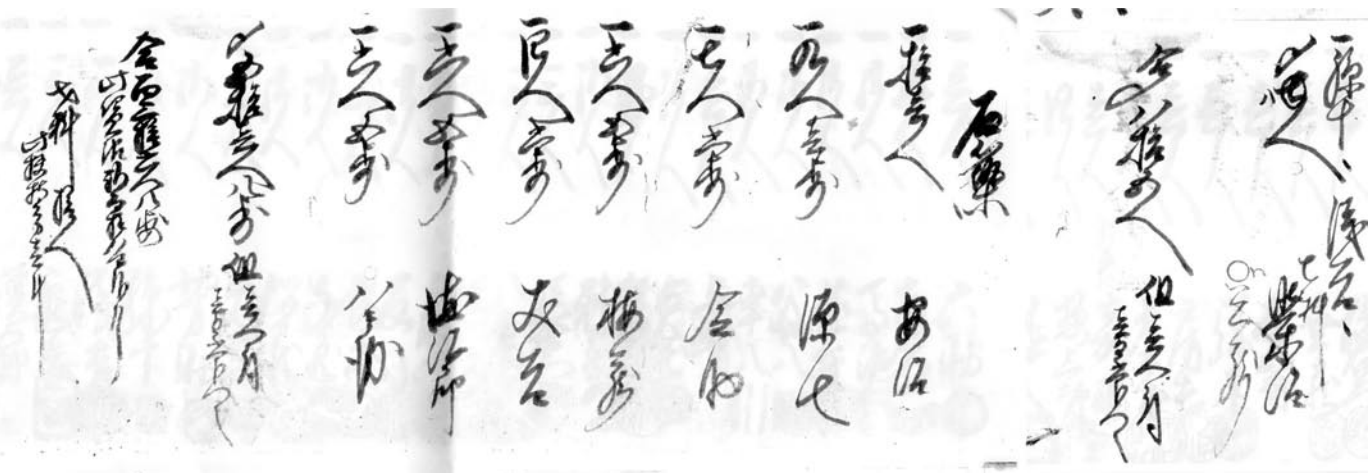


五月十一日
一 馬治 徳三郎 谷八
一 孝八 与五兵衛 貞蔵
一 兵四郎 料蔵 湯賄 多右衛門
才料
兵蔵

一 長右衛門 八兵衛 植松
一 亀六 友八 与吉
一 安末 千蔵 松蔵
一 惣三郎 文助 好助
一 孫十 浅吉 亀吉
一 伝兵衛 湯賄 両右衛門
才料
兵蔵

同十二日
一 長右衛門 八兵衛 植松
一 亀六 友八 与吉
一 安末 千蔵 松蔵
一 惣三郎 文助 好助
一 孫十 浅吉 亀吉
一 伝兵衛 湯賄 両右衛門
才料
兵蔵

一 惣三郎 文兵衛 長右衛門
一 八兵衛 亀吉 安末



一 孫十 残吉
才料
兵蔵

石築

一 拾壺人 安治
一 九人壺歩 源七
一 七人六歩 令助
一 六人五歩 梅蔵
一 四人六歩 丈吉
一 六人五歩 徳治郎
一 六人五歩 八兵衛
一 五拾壺人八歩 但壺人二付
壺匁六分八厘

合 百三拾六人八歩
此賃銀 貳百拾八匁八分八厘
才料 拾人
此扶持方 壺斗

（以下略）
以下は、五十名の普請人の名前と押印、石築七名の名前と押印が続く。